

令和4年度 学校評価報告書1 (計画段階 **実施段階**)

いずれかを○で囲む

学校名		福岡市立博多工業高等学校	学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価(総合)			
学校長	ふりがな	とう きくえ	「第2次福岡市教育振興基本計画」に則り、市立高等学校の活性化へ向けた具体的方策を組織的に取り組み、「都市型工業高校」を目指す。そのためには、現在の質と価値を維持し、存在意義を明確にする。 ○「Challenge博工」の学校スローガンを掲げ、進路実現(進路保障)をメインテーマとし、ものづくり・資格取得・部活動の活性化において、生徒を磨き、教職員とともに「日本の工業高校」になる。 ○創立90周年を見据え「NEXT STAGE博工」～未来の自分をつくる、未来の博工を創る～の具体的方策を策定し推進する。 (1) 校訓「質実剛健」の精神を継承し、質朴、誠実、心やからだ健やかで、強くたくましい生徒を育成する。 (2) 「安全第一」を重視し、工業教育やものづくりを通して、専門的知識や確かな技術を習得させ、工業発展や産業社会に寄与・貢献できる有為な生徒を育成する。 (3) 人権教育を推進し、個人の価値や尊厳を大切に、互いの人格を尊重する意識・意欲・態度を養い、実践行動ができる生徒を育成する。 (4) 礼儀や秩序、規律を重んじ、勉学や部活動に動しむ学校文化を創造し、誇りや自信を持った生徒を育成する。		(1) 新しい生活様式の定着を目指し、生徒会を中心とした環境美化運動を継続し、規律を守り、自発的な判断・行動能力を高めさせ、諸行事の円滑化を図り、自信と誇りを持たせる。(総務部) (2) 授業規律の確立を推進し、本年度より学年進行する新カリキュラムを基に、学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸ばさせるよう、工夫した授業に取り組む。また、観点別評価の導入と校務支援システムの円滑な運用を目指す。(教務部) (3) 民法改正による18歳成年への引き下げ及び企業が求めるコンプライアンス(法令順守)の観点から、自己指導能力(適切に判断し、行動できる力)を身に付けさせる。(生徒指導部) (4) キャリア教育活動を通して、自ら進路を主体的に選択決定できる能力や態度を育成し、進路の実現に向けて支援・指導を推進する。(進路指導部) (5) 生徒主体での学校行事を推進するとともに、部活動を通じて「人間力」「創造力」の向上を図り、活気のある学校づくりに取り組む。(特別活動部) (6) 工業技術「各種競技会・資格取得・ものづくり」の向上のために企業や大学等との積極的な連携や知的財産教育等に取り組むとともに、ICT機器及び一人一台タブレットの活用による個別最適な学びと協働的な学びにより基礎から高度な知識・技術まで身につけさせる。また、各学科が特色を打ち出した魅力ある学科づくりを目指し、効果的な広報の充実を行う。(工業教育推進部) (7) 生徒・保護者に寄り添うとともに、一人一人の多様なニーズに対応した教育を行う。また、生徒の自己肯定感及び高校生としての人権感覚を育み、心地よい学校生活を送れるように努める。(人権教育推進担当)		B		B	
	氏名	藤 菊英								
校長本校在任年数		2年								
学校関係者 評価委員会 委員長	ふりがな	よしずみ まさたか								
	氏名	吉積 正孝								

昨年度の成果と課題	◎成果:①観点別評価の評価基準を設定した②自動車工学科のAEONエコワングランプリ環境大臣賞受賞、知的財産教育における上位入賞、機械科ものづくり専門部の全国3位相当入賞③通級指導員、SC、SSWの配置による支援体制の充実④特別支援学校との交流体験の実施 ◎課題:①全職員による継続した粘り強い指導②キャリア教育の充実と企業等との連携強化③進学コースに対応した新しい推薦内規の周知と共通理解④生徒会や部活動における主体性を育てる継続的な活動⑤WITHコロナを見据えた、学校行事の実施に向けた創意工夫。
-----------	--

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	学 校 関係者 評 価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策				
教育課程・ 学習指導	可能性及び能力を最大限に伸ばさせる授業への取組み	ICTを活用した授業の拡充を行う。	B	B	教室のICT機材、一人一台端末が整備されており、数年が経ちます。子どもたちは、これらを扱うことが当たり前になりました。教科書や教材など、デジタル化について行っていない部分も見受けられます。また、教員達の考えも大きく転換の必要に迫られています。ただ、世の中は、デジタルではないアナログで成り立っている部分も沢山あります。バランスが大事だと感じています。 ICT機器の活用について、教員間の差が生じないことが大切です。 授業規律は、社会の規律に準拠することを強調願います。体験する取り組みや授業アンケート等、何事にもチャレンジする事は重要で、今後につながる事だと評価します。	ICT機器については、様々な活用法が考えられる。新しいアプリを使用した授業など、実践事例は増えてきている。これらの事例を研修などを通して教員間で共有し、より効果的な活用に取り組んでいく必要がある。
	授業規律の確立	授業と評価の一体化について、PDCAサイクルを意識した検討を行う。 教室環境の整備および整理・整頓の徹底を行う。 チャイム席を守る。	B	B		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	礼節を重んじた指導の徹底を行う。(より良い行動の積み重ね)	B	B	毎日の全職員での地道な指導により、コロナ禍においても生徒は比較的落ち着いており、対面での指導が増えたことで礼節を大事にしている態度が多く見られるようになってきている。登下校指導や風紀検査においても生徒会生活委員会の働きや全職員の細やかな指導により、安全安心な学校環境づくりができています。	自転車乗車マナーと安全教育を徹底させるために、職員による、登下校指導を行う。また、生徒会等を活用し、生徒たち自身がマナーについて考える意識を向上させる取り組みが必要である。 ルール・マナーを守ることが社会に出て、必ず役に立つ時が来ると思います。 生徒のネット投稿で事件や事故とならないよう指導して頂きたいと思います。
		全職員、生徒会生活委員会による登下校指導(挨拶・身だしなみ・自転車マナー)と風紀検査での徹底指導を行う。	B			
進路指導	確かな進路実現(就職指導)	正しい生活習慣と基礎学力を定着させた生徒を育成することで、企業との信頼関係を確立させる。 キャリア教育の充実・企業との連携により、職業理解を深める。	B	B	各学年LHR等を通じて進路に関する取り組みができた。また、今年度も2年生のインターンシップを実施することができ、社会性・勤労観を身につけさせることができた。しかし、早期離職に関しては防止できていない状況である。 学年部・各教科の協力を得つつ組織的な進路指導に取り組んだ。しかし、出願や入試方法の多様化および学校推薦型選抜への対応の強化が課題である。進学コースに対応した新しい推薦内規の適用について今後も綿密な共通理解を図る必要がある。	就職率100%、進学率も上昇している。校長先生をはじめ、諸先生方のひたかたならぬ努力の結果であると存じまできている。このことは、中学校で進路指導を行う上で、とても、威力を発揮します。 早期離職者の理由を情報収集するなど、PDCAサイクルへとつながることだと考えます。 早期の離職は、何故に仕事をしているか、目標はない者にあると感じます。進路の目標が見いだせるよう個別に指導できる事を希望します。 また、PTAやOBの方をもっと活用してよいと思います。 離職後(Uターン)のフォローができる事を生徒に再度通達して頂きたいと思います。
	確かな進路実現(進学指導)	大学入試改革への対応(指定校推薦入試への依存からの脱却や、専門コースからの国公立大学専門高校枠入試への挑戦など)について論議し、理解を進める。 進学コースの体制整備(選抜方法の改善や推薦内規の周知、高大連携を含めた活動計画の策定など)を行う。	B	B		
			B			
特別活動	生徒会・部活動の活性化	生徒会専門委員会における諸活動の活性化を図る。	B	B	コロナでの制限が少しずつ緩和されてきて、学校行事等も実施できた1年間であった。生徒会活動や部活動においては今まで制限された状態からの活動であったため満足した活動はできていないと思う。しかし今後につながるように各部活動や各生徒会が新しい形での取り組み方になってきていると思う。次年度も活性化させて行きたい。	コロナ禍でも多くの求人を受けている。その中で就職内定率100%が達成できている。今の好条件を生かし、企業との連携を強化し、採用に向けた動向調査を行う。また早期離職の原因追及を行い防止策を講じる必要がある。 新しい入試形態、インターネット関連の出願、入試対応等複雑化している中、教職員自身が、適切な出願手続きを把握しなければならぬ。そのためにも、研修が必要であり、手続きのマニュアル化を進める必要がある。
		部活動生の意識向上と諸活動の活性化を図る。	B			
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し	各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る。課題研究の充実、知的財産教育の定着を図る。 ものづくり技術を向上させ、競技会などでの成果を高める。地域や中学校に対する広報活動を充実させ、本校の取り組みを積極的にアピールする。	B	B	インテリア科の課題研究が、福岡県から補助を受け、大学連携や農林水産局との連携事業に取り組むことができた。知的財産教育においては、一年生対象の7行「コンテスト」を実施した。また、学校ロゴマークなどの商標登録にも取り組んだ。ものづくりコンテストにおいては6部門に参加し、旋盤部門が県優勝を果たした。 資格取得においては、技能検定の受験者が受験料に対する補助がなくなったことにより減少し、ジュニアマイスター後期申請者も減少傾向にある。教員研修に関して、3年ぶりに福岡県工業教員研修が実施され、コロナ前と同等の参加者であった。	中学生を見ていると、一定数、「ものづくり」に興味がある、好きであるという生徒がいます。これからの生徒達の進路先として、また、「ものづくり」が原点である日本として、貴校が、尽力されて、結果を出している状況は、とても素晴らしいことと感じています。 コロナ禍の3年間を見ると今年度は、資格取得が少なく、受験料の補助がなくなった事が影響しているのかなと思われまます。このところをどう補助していくかが課題だと思います。 積極的な行事・コンテスト参加など、今後のスキルアップにつながる良い事だと考えます。
		資格取得プログラムを充実させ、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指し、ジュニアマイスター顕彰の認定者の増加を図る。	B			
		資格取得指導を充実させるための、教員の資質向上、教員の指導体制の確立・連携を図る。	B			
修学支援	生徒の自己実現に寄り添い、支援する	生徒・保護者の要望を聞きつつ、特に支援が必要な生徒に対してきめ細やかな支援を行う。	B	B	支援が必要な生徒に対し、きめ細かい対応ができたと評価している。とくに、修学支援の教員とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携も機能的に行えた。また、奨学金の相談体制も早めの案内と相談を行うことにより充実させてきた。	コロナ禍の中、世帯収入が下がり、物価の上昇が懸念されます。SSWのような福祉領域の専門家が、活躍している状況です。問題が表面化していないご家庭もあることでしよう。相談体制の充実化や支援制度の周知・広報がより一層大切になると思います。 子ども達に寄り添った指導を引き続きお願いします。 教職員の人権学習等は、今の時代、スピードを考えると必要不可欠で今後期待します。 今後も継続して、生徒が博多工を選択してよかったと思えるよう支援して頂きたいと思います。
		各種奨学金・給付金制度への相談体制を充実させ、周知と理解を広げる。	C			
		校内外で実施される研修会や学習会への積極的な参加を促進する。	B			
	生徒の自己肯定感及び人権感覚を育む	生徒会活動との連携を深め、屋形原特別支援学校との交流学習を拡充する。	C	B	人権教育に関する研修会や学習会に積極的に参加を促し、相応の参加者を募ることができた。また、屋形原特別支援学校との交流学習についても例年どおり実施できた。今後の課題として、まだまだ多くの教職員に校外での人権学習会への参加を誘うことと考えている。	年々支援が必要な生徒が増加しており、必要な支援内容も多岐に渡っている。生徒一人一人の状況に応じた、組織的できめ細かな支援体制をとることが重要である。 学校外で数多くの有意義な、人権に関する講演会や研修会が開催されている。これらの研修案内を行い、積極的な参加、自己研鑽を促していく必要がある。

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。

※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。